

喘息発作の受診のタイミングは？

10月に入り日中と朝晩の寒暖差が激しくなり、気管支喘息のお子さんが目立つようになりました。喘息発作は季節の変わり目に起こりやすく、今はまさに発作の好発時期にあたります。気管支喘息は気道の慢性的な炎症が原因で気道が狭くなり、呼吸困難を起こす病気です。小児喘息の治療のポイントは、重症化や遷延化を防ぐため早期に発作を抑えることです。火事でいえばボヤの段階で消し去ることです。

【発作のサイン】

乳幼児では、周りの大人が発作のサインに気づいてあげなければいけません。胸の音がゼーゼーという以外に、次のようなサインがあれば直ちに病院を受診して下さい。

- (身体所見) ①鼻の孔が呼吸の度にピクピクしている。
②鎖骨の上や肋骨の間が呼吸の度に陥没している。

(日常生活の様子)

- ①活発に遊ぶ子どもが座ったままじっとして動かない。
②夜間、何度も咳こんで目を覚ます。
③息苦しそうで、食事や水分を欲しがらない。



【家庭での発作時の対応方法】

- ①上半身を起こした姿勢にして、ゆっくり息をするように促しましょう。
②少しずつ頻回に、水や白湯を飲ませてあげましょう。
③寒くない様に服を着せて暖かくして、部屋の換気をしましょう。

***心配なら、ためらわず病院を受診して下さい！！**

～親子で遊ぼう～ ⑦ まほうのじゅうたん

バスタオルを床に敷き、その上に腹ばいで乗り、大人が引っ張りましょう。(しっかり座れるお子さんは座ってもOKです。)体幹が鍛えられ、バランス感覚が良くなりますよ！

*子どもには落ちないように姿勢を調整することを伝えましょう。



10月の感染症情報

咳、鼻水がでるウイルス性の風邪が多くみられました。一過性に熱発するお子さんもいましたが、市内ではインフルエンザの発生はありません。11月16日から県の委託を受けて開業医でも新型コロナウイルスの検査ができる体制にかわります。



10月のご利用状況

10月の利用延べ人数は37名、一日平均利用人数は1.7人でした。年齢別では、1歳児が23人(62%)、2歳児が7名(19%)で、1、2歳児のお子さんが全体の8割を占めていました。疾患別では咳、鼻水、熱の急性上気道炎がほとんどで、一部アデノウイルス感染症と感染性胃腸炎がありました。新型コロナウイルス感染症の流行により、手洗い、マスク着用が国民に定着したせいか、季節ごとに流行する感染症がみられなくなりました。これから本格的な冬を迎えます。今からでも遅くありませんので、インフルエンザワクチンの接種をするようにしましょう。